

かながわ子ども教室

ニ ュ ー ス 第73号

平成 29 年度 DAA 交流会が開催されました



白幡 善雄

平成 30 年 3 月 7 日 (水) 13 時 50 分から、通算 19 回目の DAA 交流会が開催されました。場所は恒例の新宿文化センター 3F 小ホールにて、約 100 名の会員が集まりました。冒頭の挨拶では、福元博幸 DAA 委員長から「楽しい有意義な DAA」、ダイヤ財団樋渡泰典常務理事から「今後も支援を」との話があり、次にダイヤ財団澤岡詩野主任研究員の基調講演「人生 100 年時代の居場所学：豊かに歳を重ねる為の 3 つのポイント」を約 50 分、その後当会大竹壽利会員もパネリストとして参加されたパネルディスカッションがありました。澤岡さんの講演は身近なテーマで、



「人生 100 年ともいわれる時代の居場所」を考える、「ちょい悪力」のチェック、「第三のイバシヨ」創るポイントなど、大変興味深い内容でした。最後に、「ちょい悪」の勧めとして、①仕事抜きでも付き合える仲間を持つべし②自分の価値観で自分を語れる人間になるべし③パートナーを異性として意識すべし④年を取るほど目の前の瞬間を大事にすべしと締め括りがありました。大竹会員はじめパネラーの皆様からは、現在の居場所・将来 (5 年先) の居場所につき、それ

澤岡主任研究員の基調講演 それの方が生き

生きとした「イバシヨ」を発表していただき、コーディネーターとしてダイヤ財団森義博部長の巧みなリードにて、あっという間の素晴らしい講演会となりました。後半は、ダイヤビックのリードでの運動と「演芸鑑賞」として薩摩琵琶演奏(壇ノ浦の戦い・餅酒合戦)を古澤月心・史水ご兄弟出演にて楽しみ、終了後はレストランにての懇親会にて終了となりました。当会からも 22 名と沢山の方のご参加を頂き心から感謝申し上げます。



4 グループの代表によるパネルディスカッション



薩摩琵琶の演奏語り 古澤月心(左)と古澤史水(右)師匠



大野 明

川崎市青少年フェスティバルに参加して

3月4日(日)に川崎市が主催する川崎市青少年フェスティバルが例年同様川崎市とどろきアリーナにて開催されました。川崎市のこども会連盟、ガールスカウト、ボーイスカウト、海洋少年団など市内各団体がそれぞれ趣向をこらしたブースを設営し、親子連れなど多くの市民が訪れました。当教室は平成22年から「おもしろ科学実験教室」として参加しており、今回で8回目となります。このフェスタでは唯一の「科学教室」を謳い、理科好きの子どもを育てる一翼となっています。本年も昨年同様、アリーナエントランスに十分なスペースをいただき、「海洋」「空気」「光学」「電気」の4教室を設け、先生・サポーター合わせ22名が参加しました。

10時の開会式ではフェスタ実行委員会の若い元気一杯の発声がアリーナ内に響きわたりました。「かながわ子ども教室」の揃いの黄色ベスト集団もひとときわ目を引いていました。開場と同時に来訪者が続々とブースを訪れ、終日「息をつく暇もない」状況が続きました。小学校低学年と幼稚園生などの親子連れが大部分であり、「すごい!」「分らなかった!」など、あちこちで歓声が沸いて来訪された皆さんは十分に楽しんでいました。今回の当ブース来訪者数は子ども633名、大人467名の合計1,100名でした。

川崎市の福田市長も開始早々に来訪され、空気教室で大気圧や風船などの実験を熱心に体験されるなど感動しておられました。海洋教室では「海のこと大好き」という青年男性が訪れ、「しんかい6500」「探査船ちきゅう」「海の深さと生息する魚の種類」などについて専門的な質問をされていました。また、4才の幼児も「絶対に実験がしたい!」と頑張っていました。電気教室ではコンデンサーや発電機といった高学年で習う教材についても2年生などでも良く取り組むことができました。私が加わった光学教室では



福田市長、二つの風船の空気の移動に大いに興味

万華鏡に子どもたちも「キレイ！」と興奮、なかなか次の子に譲らないなど賑わいました。セロテープを重ねて作った無色の昆虫などの絵が偏光板でキラキラと多色に輝くのも驚きだったようです。ところで、来訪した子どもたちにはカブト虫よりクワガタの方が人気があるようでした。私が子どもの頃は断然カブト虫でしたが・・・これは機会があればアンケートを取ってみたいところです。

今回はホワイトボードを使い教室ビデオを放映しました。ビデオを見た元住吉小学校児童の教育熱心なお母さんや、実験に熱心に参加された平間小学校児童のお母さんなどから、「教室はどこでやっているのですか？」と質問が続き、当教室のホームページを見るように勧めるなどで対応しました。ビデオはインパクトが十分に効果的でした。また海洋では「ゴルフをするので家にゴルフボールはあります。死海の実験を自宅で行いたい方法が教えて欲しい」との質問があり、「水100gに対して塩35g（濃度26%）」と説明し感謝されました。

来場した子どもたちは皆順番を良く守り、実験後は「ありがとうございました」とキチンと礼を言っていた子が多くいて、対応していて気持ちの良いものでした。日本の将来もまだまだ満更ではない、と思いました。

最後になりましたがブースへの十分な机、椅子の配置や機材の宅急便受入れ、発送など川崎市スタッフのご協力に感謝致します。



第23回 川崎市青少年フェスティバル 2018.3.4

<かながわ子ども教室> (勝浦)

平成29年度の活動の主なトピックスを以下にご紹介します。

①教室開催

●小学校の正規授業、理科・科学クラブ、地区センター、児童相談所などでの教室、学童クラブ、放課後キッズ、はまっ子ふれあいスクールなどの放課後の教室、各地のフェスタへ参加しての教室等々を合計すると年間156回（昨年度145回）の予定です。

例年通り、鳥が丘小学校で正規授業として9コマの授業を担当しました。4年生、5年生、6年生の全クラスに、それぞれ「空気教室」、「日本の食べ物教室」、「電気教室」を3日間にわたって行いました。新たに所沢市立北秋津小学校6年生2クラス「プラスチック教室」、北山田小学校6年生3クラス「電気教室」、牛久保小学校3年生3クラス「宇宙教室」と、大幅に正規授業を増やすことができました。引き続き、正規授業、理科クラブの拡大を計っています。

●新しい教室（教科）

今年度は残念ながら、新規教科のスタートはありませんでしたが、来年度に向けて「ロボット教室」を準備中です。これは、2020年度からの新学習指導要領で、小学校でプログラミング教育が必修化されることを意識したものです。新しい教科の開設は、我々かながわ子ども教室のエネルギーの維持・向上に大きく貢献するものです。また、既存の各教室も、開催後の反省会での辛口の意見を参考に、内容のブラッシュアップに努力しています。

②実行委員会

平成29年4月度の第162回から平成30年3月度の第173回まで毎月開催し、毎回30-35人が参加しています。教室開催計画とサポーター・映写機材(パソコン、プロジェクター)の受け渡しの調整の他、教室内容の向上案件等のさまざまな重要事項を議論・決定しています。

③外部への展開

NPO法人きらめきライフ多摩との連携は順調に推移しています。ねんりんピック秋田2017でも例年通り、共催という形でブース内に「水族館」の出展協力を頂きました。